資料－8.3 維持浚渫方法

シディハセインにおいて計画されている漁港は、港口部の幅が 20m、泊地の大きさも 60m 四方と狭く、大型の浚渫船による維持浚渫は不可能である。したがって、以下に示すような小規模な浚渫方法が推奨される。

①ポンプリフト（図 8.3-1）

簡易なバージ（幅約 5m、長さ約 10m）の上に、ダイバーが消防用ポンプによって土砂をバージ上に吹き上げる方法である。この方法は必要な機械設備も小さく簡易な浚渫方法であるが、1 日当りの浚渫量は 10～20m^3 と少なく、局所的に砂が堆積した場合や少量の浚渫に適している。ただし、礫が混在した場合は利用に適さないこと、及び波浪の静穏な季節のみ浚渫作業が可能であることに留意する必要がある。

②バックフォー台船（図 8.3-2）

300 トンまたは 400 トン台船（船体固定用装置を装備した）にバックフォーを載せ、土砂運搬用の台船によって浚渫土砂を運搬する方法である。1 日当りの浚渫量は 100～200m^3 であり、波の穏やかな内湾で水深の浅い（水深 3m 程度）場合に適している。特に、バックフォーの掘削可能深さと計画浚渫水深に注意が必要である。また、港内が狭いこと及びシディハセイン漁港付近には避難用の港湾がないことから、浚渫作業は波浪の静穏な季節に限定されることに留意する必要がある。

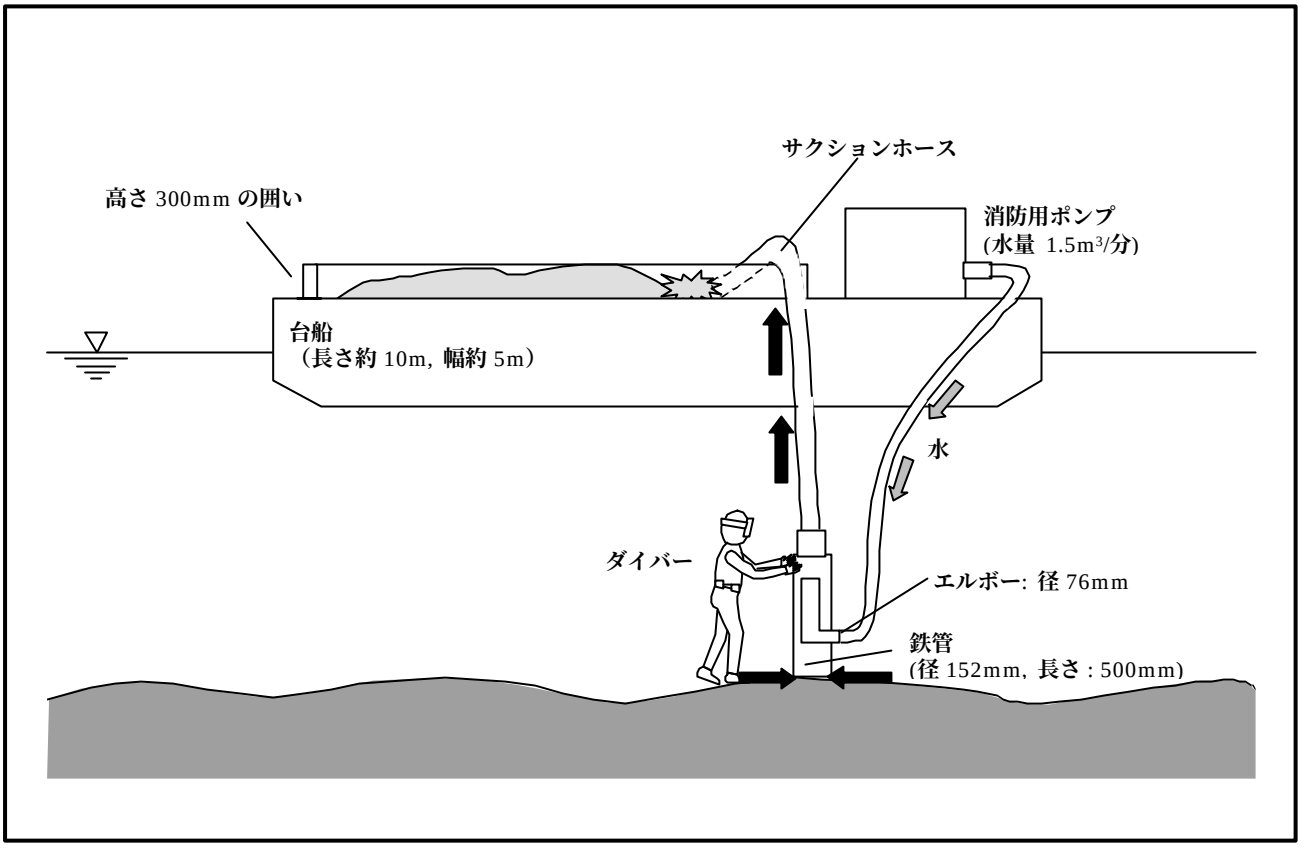

図 8.3-1 ポンプリフトによる浚渫

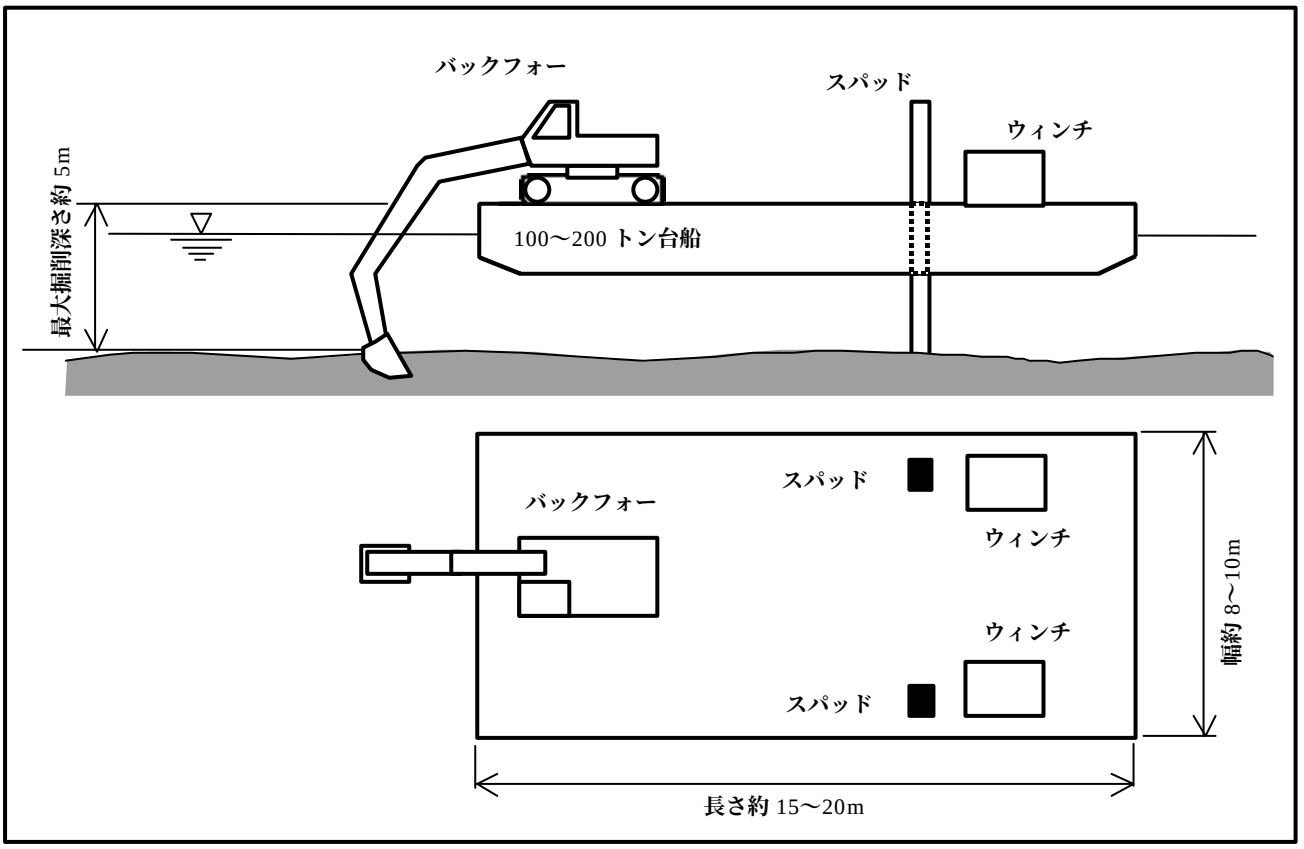

図 8.3-2 バックフォー台船による浚渫